

■ 概要

平成23年5月、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産の早期登録実現に向けて、大阪府、堺市、羽曳野市、藤井寺市の4者が一体となって取り組む体制として、百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議を設立。

今回がその第6回の会議で、平成25年8月、国の文化審議会において百舌鳥・古市古墳群の今年度のユネスコへの推薦が見送られたことを受け、今後の方針を決定するもの。新たな目標を、平成27年度の国内推薦資産への選定、平成29年度の世界文化遺産登録とすることが承認された。また、「(仮称)百舌鳥・古市古墳群を活用した地域活性化ビジョン(素案)」について、広く意見募集を行い、平成25年度末に成案化することを確認した。

■ 会議要旨

1. 開会(会長 代理出席 小西 大阪府副知事挨拶)

百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議の第6回会議の開会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当推進本部会議は、平成23年5月の設立から約2年半、世界文化遺産登録実現に向けて取り組んできた。この6月には、今日ご出席の3人の市長さんと私で、当時の近藤文化庁長官に世界遺産登録の推薦書原案を提出したが、その後開催された国の文化審議会において、今年度のユネスコへの推薦は見送られる結果になった。

その決定は、非常に残念であるが、その後10月に開催した国際シンポジウムで、国内外の有識者の方から色々な意見をいただいたことを踏まえ、2つのことを確認したい。1つは、百舌鳥・古市古墳群の価値はゆるぎないものであり、世界遺産登録に向けた取り組みを進めていくということ。もう1つは今年度推薦にいたらなかった点について、様々な課題があると指摘された内容について課題を解消し、さらに成熟した推薦書原案を作成していく必要があるということ。

地元、大阪全体、さらには、日本全体の百舌鳥・古市古墳群への理解、支援の機運を高めていくことが大事。そのために機運の盛り上げ、まちの魅力づくりに、さらに取り組みをすすめていく必要がある。

今日、松井知事は出席できなかったが、知事からも、「世界遺産登録に向けて引き続き関係者の皆様と一体となって取り組みをすすめていきたい。出席の市長様によりよく伝えてほしい」と、伝言を預かってきた。最後に百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録に向けて今日が再スタートの第一歩として、取り組みを進めるということを確認して挨拶とさせていただきます。

※出席委員紹介

2. 議事(本部長の竹山 堺市長が議事を進行)

〔議題1〕百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録に向けた今後の方針について(案)

- ・資料「議題1」「議題1 参考資料」に沿って事務局が説明。

(小西 大阪府副知事)

- ・熟度の高い推薦書原案の作成ということで3点課題があり、いずれも大変重たい課題であると考えている。これをしっかり協議、検討して推薦書原案を作成していくことを考えると、こ

れまで今年度を国内推薦の目標として取り組んできたが、改めて平成 27 年度国内推薦、平成 29 年度登録をめざすということで進めていきたいと考えている。

(北川 羽曳野市長)

- ・特に緩衝地帯について、当市は、堺市、藤井寺市さんより少し遅れているが、来年度景観条例を制定する予定で今進めている。緩衝地帯の問題は、地元の皆さんの機運の醸成を一番に進めているということもあり、少し時間がかかったが、しっかりとした対策をたてていきたい。また、より熟度の高い推薦書原案を作成して、平成 29 年度登録を目指して頑張っていきたい。

(國下 藤井寺市長)

- ・平成 29 年度の登録を目指すということで了解しているが、緩衝地帯、機運醸成については、我々藤井寺市としてはまだまだ弱いところがある。これらについて 4 者一丸となって頑張ろうという気持ちを強くもっている。

(竹山 堺市長)

- ・課題は色々あるが、大阪府、羽曳野市、藤井寺市と連携、協力してそれらの課題解決を図り、早期に世界遺産登録の実現を図りたい。「早期に」という意味から「平成 27 年度の登録がなくなったなら平成 28 年度を目指すべき」、と思っていたが、今年の文化審議会で、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が推薦されたものの、最終的に、「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」が推薦された。経過を踏まえると、来年の文化審議会ですべて「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が推薦される可能性が高いということは強くうなずける。我々としては、平成 27 年度の国内推薦、平成 29 年度の世界文化遺産登録という方針をしっかりと定めるということが、4 者の共通の理解であると考えている。平成 26 年度中に推薦書原案や包括的保存管理計画原案を完成し、改めて平成 27 年度のできるだけ早期に、文化庁に提出するという方針でいきたいと思う。今回は前回の轍をふまないように、4 者がトップも、事務局も一丸となって万全をつくしたい。

(小西 大阪府副知事)

- ・3 人の市長から緩衝地帯への取り組み、あるいは機運醸成をさらに強めるということで、心強いお言葉があった。また堺市長から平成 27 年度の国内推薦の目標設定は妥当だという言葉いただいた。平成 26 年度の国内推薦は、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」になる可能性が非常に高いと、そういう意味では平成 27 年度の国内推薦を勝ち取るというのは非常に現実的な目標である。一方でそれでも厳しい目標だと思うので、この平成 27 年度国内推薦を勝ち取るために全力を挙げてやる、まさに来年度が正念場であり、来年度中にこの取り組みを見極めるぐらいの気持ちでやるということで、どうか皆様のご協力をよろしくお願いしたい。

* 議題 1 について了承。

〔議題 2〕 その他

- ・資料「議題 2」に沿って事務局が説明。

(議長・竹山 堺市長)

議題 2 の（仮称）百舌鳥・古市古墳群を活用した地域活性化ビジョンについて、11 月 28 日から意

見募集を行うこと、今年度中に策定することを確認した。

〔その他〕各団体における取組み

（樽井 羽曳野市市長公室長）

- ・羽曳野市では、「百舌鳥・古市古墳群を世界遺産に」と題して、10月のはじめから1月の終わりまで、市内の公共施設8か所において、リレーパネル展を開催している。また、小学生とその家族を対象に「古市古墳群わくわく親子バスツアー」を11月30日土曜日に開催する。さらに市民活動団体である「史遊会」や「四十四の会」とは協働で取り組みを進めており、今年の夏には、応神天皇陵古墳の外濠の一部にひまわりの花約700本を植樹していただき大変好評を得た。最後に峯ヶ塚古墳がある峯塚公園の管理棟等については、世界遺産の情報発信の拠点として、今後とも機能を充実させていきたい。

（北川 羽曳野市長）

- ・特に民間との連携事業ということで、藤井寺市と共同で行っているのが「古市古墳群ウォーク・アンド・クリーン」で今年、5回目を迎える。もう1つは事務局で企画して12月7日に実施される「電車DEもずふるマルシェ」は、当市商工会が非常に力をいれているので、地域の盛り上げに努力したい。

（北本 藤井寺市総務部長）

- ・藤井寺市は、世界遺産を街づくりの根幹ととらえ、地域活性化ビジョンにもあるように、古墳群を人類の宝として次世代に引き継ぎ、地域の人々が誇りを持ち続けられる街づくりを目指している。その中で、10月24日、25日に開催した国際専門家会議の意見を踏まえ、資産保存のための管理計画、緩衝地帯の考え方を整理し、地元の機運醸成に取り組んでいきたい。特に機運醸成については、先日の国際シンポジウムでも比較的高齢で、もともと古墳に興味のある方々の来場が多く、若年層の参加が少ないように思われた。そこで、若い方に興味をもってもらおうという点から、平成23年度より学校教育の一環として、小学校6年生を対象に、地域を想う心を育む世界遺産学習に取り組んでいる。また、市内にある休耕田を借り、稲穂で古墳を形づくる「黄金の古墳事業」を実施したり、昨年度は津堂城山古墳の調査報告書を作成した。また、藤井寺市でも観光ボランティアの会が、本市の魅力を多くの方々に広めていただいている。こうした地域活性化のために活動しているボランティアの取り組みを4者でバックアップすることにより、地元がさらに盛り上がるのではないかと。

（國下 藤井寺市長）

- ・世界遺産への登録は、地元だけではなく、国内、そして世界にもっと発信し、盛り上げることが必要だと考えている。そのために4者がそれぞれの役割を十分認識し、一丸となって力強く推進していかなければならない。

（志摩 堺市文化観光局長）

- ・来年度における本市の新たな事業として、平成26年4月、堺市博物館内に百舌鳥古墳群の暫定ガイダンス施設をオープンさせる。この施設ではバーチャル・リアリティーの技術を使い、古墳を上空から見ているかのような体験ができ、皆さんに古墳の雄大さを体感してもらいたい。こう

いった施設により、来訪者に古墳の価値を知ってもらい、そして機運醸成につなげていきたい。また仁徳天皇陵古墳に近いJR百舌鳥駅周辺において、道路整備などを行う。

(竹山 堺市長)

- ・大きな課題として緩衝地帯の問題がある。市内での議論のみならず、イコモスの関係者を含め多くの専門家から意見をいただいております。現在緩衝地帯の素案作成の最終段階にある。また、藤井寺市、羽曳野市と調整した上で、推進本部会議としての素案を今年度中に策定したいと思っている。もちろん市民の協力は不可欠であり、取組の発信を十分行った上で、市民の皆さんに説明していきたいと思っている。
- ・機運醸成については、府と市4者それぞれが取り組むのも大事だが、やはり4者が一体となって、大阪、関西、そして全国で百舌鳥・古市古墳群をPRしていかなければならない。やはり(百舌鳥・古市古墳群が)大阪、堺、羽曳野、藤井寺にあるということが全国的にまだまだ知られていないと思っているので、特に首都圏を中心に、具体的にどのように機運醸成していくのかということを考える必要がある。関西経済界にも協力してもらい、オールジャパンの取組みにしていく、そういうことを4者でしっかりとやっていきたい。

(大江 大阪府府民文化部長)

- ・大阪府においては、広域自治体としての役割をしっかりと認識して頑張っていきたい。推薦書作成に係る手続きや広域的な情報発信を重視して、全国的な盛り上げにつなげて行く必要があり、府はそこを主に担っていきたい。今後は、ますます国、文化庁、宮内庁との調整に力をいれて取り組んでいきたい。情報発信については、歴史、考古学、世界遺産に関心がない層にもPRすることが重要であり、民間企業とのタイアップ広報ということで、恐竜化石展の告知に百舌鳥・古市古墳群のPRをいれるといった、関心層の裾野を拡大する事業を実施している。そういった取り組みや各市の取組みが効を奏したのか、平成23年7月には42.7%であった認知度が、平成25年3月には52.4%と半数を越しており、取組みの効果がでていっていると実感している。今後は、府として、関西広域連合における関西の世界遺産PRと連携し、ネットワーク化した形でPRしていこうという動きがある。暫定リストに記載されている百舌鳥・古市古墳群も仲間に入れていただき、一緒に「世界文化遺産の集積した関西」のPRに力を入れたいと考えている。
- ・経済界と協力し、登録機運を全国に拡大するという点で、非常に重要だと考えているのが、如何にこの古墳群が価値の高いものなんだということを知ってもらいたいということ。そのために世界遺産に相当する価値の高いものを地元が千年以上も守っているんだということや、太古に非常に大きな規模の精度の高い土木工事をやっているといった、「細部にこだわったメッセージの発信」というものを工夫していきたいと考えている。
- ・今後、国の文化審議会では指摘されている課題を着実に解決するために、地元市と詰めた緻密な議論をさせていただいて、文化庁や宮内庁に提案型で調整ができればと、そして熟度の高い推薦書原案の作成について大阪府として力をいれてやっていきたい。

(小西 大阪府副知事)

- ・3者の方から登録に向けた課題への対応や情報発信について、地元での機運の盛り上げについて報告をいただいた。あわせて國下市長から「国内、世界への発信を」ということ、また竹山市長からも「大阪、関西、全国へと、特に首都圏を中心にPRしていくこと、オールジャパンの取組みにするのはどうしたらいいか考えていかねばならない」と発言がありました。この点は大阪府

が広域自治体として、関西の経済界、関西広域連合との連携に特に力をいれてまいりたい。

- ・ 熟度の高い推薦書原案の作成、特に緩衝地帯の問題については、竹山市長から今年度中に推進本部会議として素案を作ろうという提案があったので、しっかり協議していきたい。それから課題提起があった管理体制の問題、これは宮内庁と協議していく必要があるが、どういった管理体制がいいのか協議をすすめていきたいと考えている。また、資産の価値を海外の専門家に理解してもらうために、推薦書原案の表現についてもさらにブラッシュアップをすすめていきたい。竹山市長から、4者のトップ、事務局が一体となって取り組む必要があるということをお聞き、その確認が今日できたということについて、知事にも報告させていただき、大阪府としてもしっかり取り組んでいく。

(議長・竹山 堺市長)

- ・ 登録に向けて、特に平成26年度は、平成27年度の国内推薦を勝ち取るため、推薦書の精査や宮内庁など関係機関との協議をしっかりと進めていくとともに、地元3市を中心として緩衝地帯の設定や地元の機運醸成に向けた取り組みを進めることが肝要である。それぞれが役割を果たしつつ、新たに策定した目標年度に向かって、さらに4者が一丸となって頑張っていきましょう。

以上